敦賀美浜 ふるさと紀行

敦賀の桃太郎伝説

旧本殿に施された桃太郎の彫像

日本昔話でおなじみの桃太郎。実は、敦賀ともゆかりがあることをご存知でしょうか。

敦賀と桃太郎の関わりを示すのが、慶長19年（1614）に造営された氣比神宮の旧本殿です。虹梁の一部に真っ二つに割れた桃の実の中に立つ桃太郎と思しき人物の彫像があったことから、氣比神宮を桃太郎ゆかりの地とする説が唱えられるようになったのです。

「氣比神宮と桃太郎との関係は明らかではありません。しかし、古来より桃の実は魔除の意味を持ち、日本神話の中でも桃の霊力が用いられてきました。神宮本殿建築の彫刻にも同様の意味や願いが込められ、社殿を災いから護るために用いられたのではないかと推測されます」と話すのは、氣比神宮の桑原宏明宮司。旧本殿は昭和20年に焼失しているため、桃太郎像自体も古い写真でしか確認できず、その起源は謎に包まれていると話します。

古い写真に残る旧本殿の桃太郎像。桃の実の中に扇を持つ着物姿の桃太郎が立っているのが確認できます。

最古の桃太郎像として貴重な作品

桃太郎の発祥の地としてよく知られているのは岡山県ですが、実は国内の多くの地域で桃太郎の昔話や発祥に関する伝承が残されています。

桃太郎の物語の原型が成立したのは室町時代末期から江戸時代初期頃で、国内に広まったのは江戸時代中期ごろと言われています。そのことから、氣比神宮の桃太郎像は比較的早い時代の作品と考えることができ、桃太郎の起源を語る上でも貴重な資料とされています。

桃太郎をモチーフにした銅板プレート。官幣大社の記念品で昭和20年以前に作られたものと思われます。

郷土人形として親しまれる

「氣比神宮の桃太郎像は、生まれたての赤子ではなく、扇を手に、着物姿で天衣をまとっているのが特徴です」と桑原宮司。旧本殿の彫像のみならず、同様の姿をした桃太郎をモチーフとした銅板プレートも残されており、昔からその存在が親しまれていたことが伺えます。

また、敦賀の桃太郎は郷土人形としても珍重されてきました。戦後間もない頃から本殿の彫刻をモチーフとした桃太郎像が作られるようになり、除災、魔除けのお守りとされるとともに、その愛らしい姿は郷土玩具として親しまれ、地域に根付いています。

多くの謎に包まれながら、現在に伝承されてきた敦賀の桃太郎。その発祥や不思議な縁について、いろいろな想像をめぐらせてみるのも一興です。

この桃太郎像は、郷土人形としても親しまれています。

桃太郎像があった氣比神宮の旧本殿は、慶長19年に福井藩主結城秀康が造営。国宝の指定を受けていましたが戦火で焼失し、現在の主要社殿は戦後に再建。奇跡的に戦禍を逃れた大鳥居は3年前に30年に一度の修繕を終え、美しい佇まいを見せています。

発行所■日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部＝〒914-8585 敦賀市木崎65号20番
☎0770（23）3021 ホームページ https://www.jaea.go.jp（令和2年12月発行）